

大学名	神戸大学		
University	Kobe University		
学部/研究科	人文学研究科		
Faculty/Department	Graduate School of Humanities		
研究指導者	松本 曜	職名	教授
Research Advisor	Yo Matsumoto	Position	Professor
帰国留学生	モニカ・カフンブル		
Former International Student	Monica Kahumburu		
派遣期間	2016年 11月 10日 ~ 2016年11月18日 (9日間)		
Period of Stay	Nov 10, 2016 - Nov 18, 2016 (9 days)		

<帰国留学生プロフィール/Profile>

国籍	ケニア
Nationality	Kenya
所属機関	東アフリカカトリック大学 講師
Affiliation	Catholic University of Eastern Africa, lecturer
現在の職名	講師
Position	Lecturer
研究分野	言語学
Major Field	Linguistics



モニカカフンブル講師(東アフリカカトリック大学にて) Lecturer Monica Kahumburu at Catholic Univ

<研究指導者からの報告/Research Advisor Report>

①研究指導概要 / Outline of Research Guidance
カフンブル氏の研究における、二つの分野での研究指導を行った。一つは、スワヒリ語の感情メタファー表現に関してである。修士論文で行った研究を発展させるため、スワヒリ語のコーパス(電子化言語資料)を用いた新しいデータ収集の方法を教授し、実際に用例の分析の指導を行った。もう一つは移動動詞の用法に関する研究である。これについては、カフンブル氏がすでに収集したデータの分析を共同で行い、それに基づいて、共同での論文の執筆を行った。さらに、研究成果を論文にする際の注意点や、上記の二つの分野において日本語と比較することから得られる知見について指導した。
②研究指導の成果 / Results of Research Guidance
カフンブル氏のスワヒリ語の感情に関するメタファーの研究については、データの分析方法に関して進展を見ることが出来た。従来の研究成果に説得力を持たせるために、Helsinki Corpus of Swahiliというデータベースの使い方を教え、そこからメタファー表現を抽出する方法と、使用頻度に基づく分析の方法を示した。それによって、以前に行った怒りのメタファー表現に関する研究の妥当性を検討することが出来た。また、新たに喜びに関する表現の分析も行い、新しい論文のアウトラインを作成した。 また、スワヒリ語の空間移動の表現に関する研究においては、カフンブル氏がすでに収集したデータの分析を共同で行った。それによって、今までの分析の疑問点を解決することが出来た。論文執筆に関しては、スワヒリ語の移動表現の基本的情報に関する部分と、分析部分の半分を、第一稿としてまとめることが出来た。
③訪問大学等での学術交流 / Scholarly Exchanges Done at Universities Visited, etc.
大きく分けて二つの活動を行った。一つは、ケニアと日本の間の学術交流に関する理解を深める活動である。在ケニア日本国大使館広報文化センター、JICAケニア事務所、JSPSナイロビ研究連絡センター、トヨタケニアアカデミーを訪問し、学術交流や留学・研修プログラムに関わっている方々、及び日本語学習者と会い、どのような大学がどのような分野で交流を行っているのか、日本に留学する学生がどのような興味や背景を持っているのかについて情報を得た。また、留学先としての神戸大学の紹介を行った。さらに、帰国留学生が属しているケニア日本語教師会のメンバーと会い、ケニアの大学で日本語を学ぶ学生の動機や達成度などについて情報交換を行った。さらに、ストラスモア大学の文学部長、東アフリカカトリック大学の学長・副学長、さらに、ケニヤッタ大学、US国際大学の教員(ケニア日本語教師会メンバー)と面会し、ケニアの大学の事情を伺うと同時に、神戸大学についての紹介を行った。 もう一つは、講義であり、二回の講義を異なる人を対象に行った。一つは、ケニア日本語教師会、そのほかの研究者、日本語学習者を対象とした日本語に関する講演であり、特に要望があったテーマ(日本語の類別詞)について、日本語で講演を行った。また、帰国留学生の勤務先の東アフリカカトリック大学では、同大学の教員と学生向けに「言語学とは何か」という講義を英語で行った。日本語、英語、スワヒリ語の比較にもとづく講義であったが、日本語に関する多くの質問が出て、日本語に関する関心の高さもうかがうことが出来た。これらの講演のための訪問の際には、日本の教育事情と神戸大学についての紹介も行った。

<帰国留学生からの報告/Former International Student Report>

①研究指導の成果 / Results of Research Guidance

Prof. Matsumoto gave a lecture at JSPS-Nairobi Research station, as well as at my institution. He also provided guidance on how I can use Kiswahili corpus, in addition to other useful tips for preparing papers for publication.

②今後の計画 / Further Research Plan

We discussed a lot of things about my research in Linguistics, as well as my work of teaching Japanese language in Kenya. I will now further investigate two topics on CMT, which appeared in my MA thesis, and aim at publishing two topical papers in an international journal. Also, I can now work on Motion Verb analysis, based on the discussions.

③本事業に対する意見・感想等 / Your general impression and opinion about the Follow-up Research Guidance

I am very grateful to the Japanese Government for having the Follow-up Research Guidance Program. I am very pleased with the follow-up guidance that Prof. Matsumoto has given me, and look forward to further research collaboration.



東アフリカカトリック大学にて(Gichure教授、Kahumburu 講師と)
At Catholic Univ of Eastern Africa, with Prof.Gichure and Lec.



JSPSナイロビ研究連絡センターでの講義
A lecture at JSPS Nairobi Research Station



東アフリカカトリック大学での講義
A lecture at Catholic University of Eastern Africa